

2025年10月3日
厚 真 町
公益財団法人イオン環境財団

10月11日（土）「厚真町さくら植樹」を実施

地域のみなさまの憩いの場となることを願い400本を植樹

北海道勇払郡厚真町（町長 宮坂尚市朗）と、公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田元也
イオン株式会社 取締役兼代表執行役会長 以下、当財団）は10月11日（土）に「厚真町さくら
植樹」を実施します。

北海道南部に位置する厚真町は、町内の7割に森林が広がるみどり豊かな町です。中央を流れる
厚真川を中心に美しい田園風景が広がり、稲や野菜などさまざまな農作物が育っており、特産物の
ハスカップの栽培面積は日本一を誇ります。

当財団は、2015年から3年間、厚真川上流部周辺のレジャー施設跡地に、水源涵養機能の
回復や防災上の観点から、地域の皆さま1,800名と16,400本の植樹を実施しました。

2021年は、当財団設立30年記念事業の「さくらの名所づくり」にて、北海道胆振東部地震
の震源地で大きな被害を受けた吉野地区にエゾヤマザクラとヤエザクラを30本植樹し、2022年
から2024年は、幌内地区の厚幌ダム工事の発生土を盛土として、エゾヒガンザクラとエゾヤマ
ザクラを350名の皆さまと2,700本植樹しました。

これまでに、累計2,730本のさくらを復興への願いを込めて植えています。

本年は、町有林伐採跡地に150名の皆さまと400本のエゾヤマザクラの植樹を行います。
同町におけるさくらの植樹は累計で3,130本となり、「さくらの名所」として地域のみなさまの
憩いの場になることを願って植樹します。

今後もひとつしかない地球を次代へ引き継ぐため、植樹をはじめとする環境活動に積極的に取り
組んでまいります。

記

日 時 2025年10月11日（土）10:30～11:30

場 所 北海道勇払郡厚真町字本郷231-1

本 数 400本（エゾヤマザクラ）

参加者 150名

主 催 厚真町・公益財団法人イオン環境財団

協 力 イオン北海道株式会社

出席者 厚真町

イオン北海道株式会社

公益財団法人イオン環境財団

町長

代表取締役社長

専務理事

宮坂 尚市朗

青柳 英樹

山本 百合子

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（当財団名誉理事長 イオン株式会社 名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした民間企業単独の財団法人として1990年に設立されました。以来「植樹」「助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4つの事業活動を中心に活動しています。現在は、持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

【植樹活動】

万里の長城で100万本の植樹をはじめ、国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的にアジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施しています。イオン全体の植樹本数は、1991年から累計約1,276万本を超えています。（2025年2月末時点）

【北海道での植樹活動】

■ 2002年～2006年 知床

北海道斜里郡斜里町は、1977年、乱開発の危機にさらされていた知床の開拓跡地を買い取り植樹し、みどりを回復させることを目標に「しれとこ100平方メートル運動」に取り組まれてきました。当財団は本運動に賛同し、2002年から2006年までの5年間で1,610名のボランティアの皆さまと累計9,000本を植樹しました。

■ 2007年～2011年 支笏湖

2004年の台風18号による樽前山麓の森林被害は、当時道内最大規模で、この地を命はぐくむ森に再生するため、5年間で5,203名の皆さまと累計39,600本を植樹しました。また2008年6月には、G8北海道洞爺湖サミットと同時開催された「J8ユースサミット」に世界各地から来日した子どもたち100人が植樹を実施しました。

■ 2012年～2014年 むかわ町

むかわ町は森林が約8割を占め、豊かな自然を利用した農林水産業が主な産業であり、森・川・海のつながりを活かしたまちづくりを目指しています。近年、山間部の森林荒廃が進んでいたことから「魚つきの森を守ろう」と森を守ることで川を守り、海を守るべく、3年間で1,735名のボランティアの皆さまと、累計16,000本を植樹しました。

■ 2019年～2021年 南富良野町

町の総面積の約9割が森林の自然豊かな地域で、2016年、台風10号の空知川の増水で甚大な浸水被害が発生しました。当財団と町は災害から地域を守りみどりあふれる森の再生を目指し3年間で650名のボランティアの皆さまと、累計7,000本を植樹しました。

■ 2024年～2025年 興部町

農業・酪農に影響を与えるオホーツク海の潮風を防ぐため、1959年より防風林が設置されていましたが、65年経過し防風林の更新が必要となっていました。2024年7月に、当財団と興部町・オホーツク中央森林組合の三者で協定を締結し、興部町宮下地区の防風林約3haを更新する5年計画をスタートしました。2024年からの2年間で、植樹面積2ha植樹本数6,000本植樹しました。



2024年厚真町



2025年興部町